

寒川町消防団消防技術基礎訓練会実施要領

- 1 開催目的 50 mmホース及びガンタイプノズルの取扱いの習熟及び技術向上を目的として寒川町消防団2年間教育の1年目の消防技術基礎訓練会として開催する。
- 2 開催日時 令和6年10月27日(日)9時から12時まで
- 3 開催場所 さむかわ中央公園
- 4 訓練概要 消火栓に直結する模擬消火栓を消防水利として、二又分水器、50 mmホース及びガンタイプノズルを活用して、6つの火点(赤×3本/青×3本/1m(緑ロープ)・3m(白ロープ)・5m(黄ロープ))を倒すまでの活動及び時間を確認する。火点配置は5種類、火点位置は放口から約35m、幅約15mの活動エリア内に示された9箇所(10配置図の赤丸)付近とし、正確な位置にはこだわらない。
- 5 資機材 トランシーバー×2(指揮者及び機関員のみ使用)、ガンタイプノズル×1(指揮者及び機関員は搬送及び使用不可)、ホース(50 mmホース×2以上4以内、65 mmホース×1)、二又分水器×1、消火栓十字ハンドル×1、オオバコ回し×1、スタンドパイプ×1、小型ポンプ又はポンプ車、コワレンゾー(小型ポンプのみ/事前設置)、65 mmホース10m(小型ポンプのみ)、ホースバンテージ(使用は任意)、ホースバッグ等(使用は任意)、拡声器(使用は任意)
- 6 支援員 訓練支援は各分団の全分団員とし、各分団が協力して円滑に訓練会を進行する。
- 7 開催方針 消防技術基礎訓練会は、各分団の意識及び技術向上のため競技性を有することとしたが、各分団の事前訓練及び訓練会での訓練においては、寒川町消防団全体の意識及び技術向上のため、互いの分団を尊重し協力し合わなければならない。
また、実際の火災は全分団員が対応することから、事前訓練を訓練会参加予定者のみの訓練とせず、各分団の全分団員で訓練に臨むことを基本とする。しかしながら、事前訓練において分団内で訓練参加及び訓練内容について過度な強要は絶対に行わない。
- 8 留意事項
 - (1) 訓練実施者の事前報告は必要ない(訓練会当日に訓練実施者を変更しても支障ない)。
 - (2) 訓練結果は後日集計後、団アプリ等で全分団員に周知する。
 - (3) 消防団本部及び消防担当の判断によるが、要領等で示された内容を明らかに逸脱した活動又は実際の災害において明らかに適切ではない活動等は、失格又は訓練中止とする。
 - (4) 事前訓練で資器材等を破損した場合は、遅滞なく消防担当へ連絡し指示を受ける。現時点では、50 mmホースの配付本数が少ないため、50 mmホースを2本破断した場合、実際の災害活動に支障が生じることから、その時点で事前訓練での50 mmホースの使用は認めない。
 - (5) 鋭角に折れ曲がった状態で展張されたホース(狭所巻き等を含む)に通水する場合、ホースが破断しやすいのでポンプ圧力を一気に上げるのではなく、ゆっくり圧力を上げながら通水する。また、ノズルでの排水後、水が残っているホースを引きずって動かす場合にホースの破断が生じやすいので気をつける。
 - (6) 訓練会での訓練実施中に、ホースが破断した場合、破断の状況にもよるが、ホースバンテージで適切な処置を施すことができれば訓練を継続することができる。
 - (7) 水撃現象(ウォーターハンマー)によりポンプ等の損傷の恐れがあるため、放口、二又分水器及びガンタイプノズルの急激な開閉を行わない。
 - (8) スタンドパイプ、吸水管、放口及びホース等の各結合部は確実に結合し、必ず結合確認を行う。
 - (9) ホースの展張方法や火点を倒す順番等は自由とするが、第一線で同色の火点3本全てを倒した後、ガン

タイプノズルを第二線に付け替えて、残りの同色の火点3本全てを倒すことは必須とする。

(10) 火点を倒す順番は、ガンタイプノズル保持者の判断ではなく、指揮者の指示に従い放水する。

(11) 5mの火点両脇（火点から約30cm離して設置）に置かれた黒色のペットボトルを倒すと加秒とするが、5mの火点が倒れた後は、活動の妨げにならない範囲で、支援員が黒色のペットボトルと倒れたペットボトルを回収する。

(12) 訓練会での訓練実施中、機関員が危険であると判断した場合、自己判断でポンプ圧力を下げても良い。

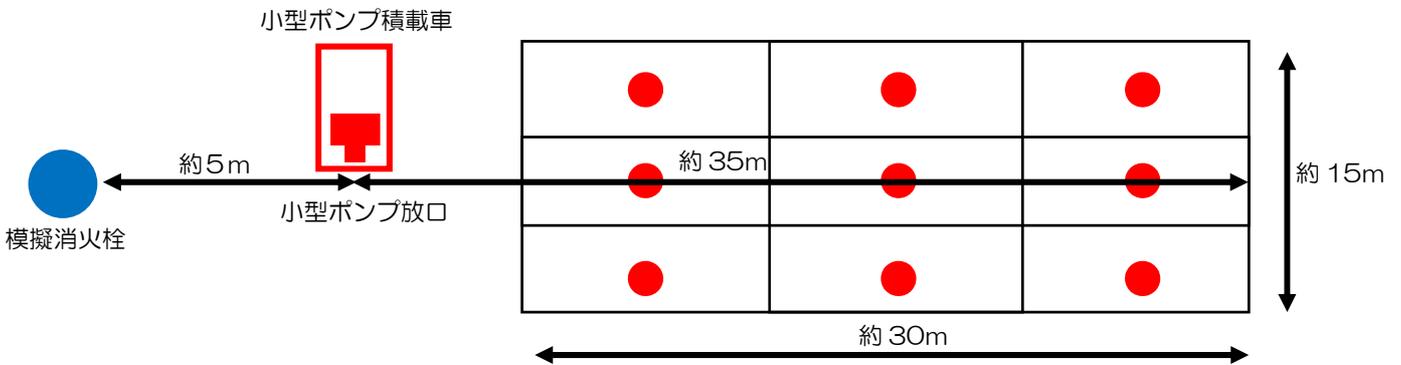
(13) 両手がふさがっている等、足でホースを動かすことが活動上、合理的な場合は足で動かしても良い。

(14) 指揮者は、現場と同じく全体の活動を把握し安全管理を行うことができるならば、一時的に二又分水器やホース保持等の効率的に現場活動を手助け（筒先の保持及びポンプ操作は除く）しても良い。

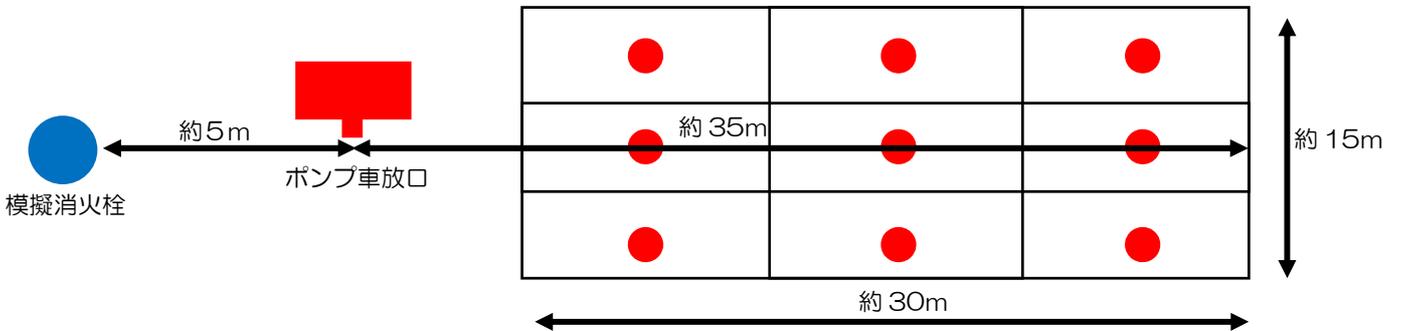
(15) 原則、現場のための訓練であるため、現場と同じように訓練をするという大前提に反しないことを心掛ける。（積載品や積載位置を訓練用に切り替えることはしない／現場で行わない活動は訓練しない）

10 配置図

(1) 小型ポンプ（車両位置は自由だが放口の位置は指定位置に合わせコワレンゾーは事前設置する）



(2) ポンプ車（車両位置よりも放口の位置を指定位置に合わせる）



進行（訓練内容以外）

区分	訓練実施分団 ※各分団4人ずつ（うち指揮者1人／機関員1人）	支援員 ※北又は南方面全分団員
事前準備	<p>①訓練実施の順番を抽選し決定する。</p> <p>②指定場所にポンプ車／小型ポンプ（小型ポンプ積載車も指定）を設置する。</p> <p>※小型ポンプの吸水管は、消火栓に接続できるアタッチメントに取り替えて小型ポンプに接続したまま巻いて置いておく。</p> <p>※訓練のためだけの車両積載品の入替えは認めない。</p> <p>※防火衣・防火帽・防火手袋（機関員は現場と同じ格好とするため必ずしも防火衣等を身に付ける必要はない）を座席に設置する。</p> <p>※アポロキャップ／活動服／編上靴を装着して開始報告を行う。</p>	<p>①模擬消火栓を準備する。</p> <p>※二又分水器まで充水する。</p> <p>②6つの火点を設置する。</p> <p>※訓練実施の順番で5種類ある②の位置が決定する。</p>
団長報告	<p>①小型ポンプ又はポンプ車前方約1mに訓練実施者、その前方1.5mに指揮者が正対し、それぞれ整列休めの姿勢で待機する。</p> <p>②指揮者は「気をつけ」の号令後、回れ右をして敬礼（団長の答礼）、「これより訓練を開始します」と団長に伝え、敬礼（団長の答礼）後に回れ右をする。</p>	<p>団長は指揮者の前方約5mで待機する。</p>
整列	<p>①小型ポンプ又はポンプ車前方約1mに訓練実施者、その前方1.5mに指揮者が正対し、それぞれ整列休めの姿勢で待機する。</p>	
団長報告	<p>①指揮者は「気をつけ」の号令後、回れ右をして敬礼（団長の答礼）、「訓練終了しました」と団長に伝え、敬礼（団長の答礼）後に回れ右をする。</p> <p>②指揮者の「わかれ」の号令後、撤収を行い、並行して次の分団が訓練準備に入る。</p>	<p>①団長は指揮者の前方約5mで待機する。</p> <p>②模擬消火栓を準備する。</p> <p>※二又分水器を閉鎖する。</p> <p>③6つの火点を設置する。</p> <p>※倒れたペットボトル（黒ペットボトル含む）は訓練実施分団の活動の妨げにならない範囲で回収する。</p>

進行（訓練内容）

区分	訓練実施分団
訓練開始	指揮者が「出動」と指示し訓練を開始する。
防火衣着装	①訓練実施者は車両の扉を開けたまま、防火衣、防火帽、防火手袋（機関員は現場と同じ格好とする）を身に付ける。 ②全てを身に付けた後に車両に乗り込み扉を閉める。
車両待機	①車両内では自由に会話しても構わないため活動の方針や準備などの情報共有（小型ポンプは車両のエンジンはかけない）を行う。 ②30秒間計測者が手を挙げたら安全確認をしながら車両の扉を開け活動を開始する。
活動開始 【水利確保】	①車両から消火栓の十字カギ、オオバコ回し、スタンドパイプを放口から約5m後方にある消火栓付近に持って行って、十字カギで消火栓の蓋を開け、スタンドパイプを接続、スタンドパイプに吸水管（小型ポンプは10mホース）を接続、オオバコ回しで消火栓を開放する。 ②消火栓の開放はオオバコ回しを7回転後に半戻しする。 ③指揮者からのトランシーバーでの指示に応答し、放口をゆっくり開放していく。 ④放口を全開放したら（小型ポンプの場合はポンプを始動し、）ポンプ圧（ポンプ圧力は0.8Mpa前後）を上げていく。
【第一線延長】	①65mmホース1本を延長し（延長方法に指定はない）放口に接続する。 ②65mmホース1本に二又分水器を接続する。 ③二又分水器が閉鎖していることを確認し、指揮者から機関員にトランシーバーで指示を出して二又分水器まで充水する（充水する際には安全管理のため必ず団員又は指揮者が二又分水器を保持）ために放口を開けポンプ圧力を上げさせる。 ④50mmホース（最大2本まで接続可）を延長し（延長方法に指定はない）二又分水器の一方に接続する。 ⑤50mmホースにガンタイプノズルを接続し閉鎖しているのを確認する。 ⑥ガンタイプノズルを保持する団員と二又分水器を保持する団員又は指揮者が連絡を取り合い、二又分水器を開放してノズルまで充水させる。
【火点に放水】	①指揮者に指示された火点とつながっている四角のゴムシートを火点側の足で踏み、足で踏んだまま放水して倒す。 ②赤（青）の火点を1本倒したら、同色の残り2本の火点（倒す順番は指揮者の指示に従う）を倒す。
【第二線延長】	①50mmホース（最大2本まで接続可）を延長し（延長方法に指定はない）二又分水器のもう一方に接続する。
【転戦】	①ガンタイプノズルを保持する団員と二又分水器を保持する団員又は指揮者が連絡を取り合い、二又分水器を閉鎖する。 ②ガンタイプノズルで排圧後に離脱し、第二線の50mmホースにガンタイプノズルを接続し閉鎖していることを確認する。 ③ガンタイプノズルを保持する団員と二又分水器を保持する団員又は指揮者が連絡を取り合い、二又分水器を開放してノズルまで充水させる。
【火点に放水】	①指揮者に指示された火点とつながっている四角のゴムシートを火点側の足で踏み、足で踏んだまま放水して倒す。 ②赤（青）の火点を1本倒したら、同色の残り2本の火点（倒す順番は指揮者の指示に従う）を倒す。 ③6つ目の火点を倒した時点で活動終了となるため、ガンタイプノズルをその場に置き、ポンプ圧力を下げエンジンを停止する。